「渋好み純粋正統・フラメンコ狂日記」
主婦の友社　1991 年 8 月

「アンダルシアは眠らないーフラメンコ狂日記」
集英社文庫 1999 年 1 月
最後に、ユニークな随筆を一つ。マドリード在住の画家、堀越千秋の『フラメンコ狂日記』（主婦の友社）は、著者のフラメンコ生活（！）を描いた破天荒な本である。リズム感に満ちたシニカルな文章は、フラメンコを知らない人も、十分楽しめるはずだ。

内容紹介:「フラメンコ」とはある種の生き方を意味する言葉なのだ…。フラメンコ(本来は踊りではなく唄のことを指す)に魅せられ、自らも唄い手になってしまった画家が、南部スペイン・アンダルシアの魅力をあますところなく描く。ヒターノ(ジプシー)たちとの友情、音楽への愛。スペイン在住二十年の著者ならではの深い洞察がにじむ、絶妙な語り口の傑作エッセイ。

ヒターノたちとの友情、音楽への愛。スペイン在住 20 年、フラメンコに魅せられ、自らも唄い手になってしまった画家が、スペイン・アンダルシアの魅力を熱く語るエッセイ

集。逢坂 剛

最後に、ユニークな随筆を一つ。マドリード在住の画家、堀越千秋の『フラメンコ狂日記』（主婦の友社）は、著者のフラメンコ生活（！）を描いた破天荒な本である。リズム感に満ちたシニカルな文章は、フラメンコを知らない人も、十分楽しめるはずだ。
逢坂 剛

感想・レビュー
読書メーターより
画家堀越千秋のスペインの日常悲喜こもごも。主にヒターノフラメンコカンテ一族との交流。フラメンコとは何か。ひとつひとつのエピソードは、飲んだくれて歌ってポンコツでドライブして。。。ともすれば無駄な時間とくくってしまいそうな小さな出来事たち。アグヘタ一族はフラメンコ界では知らない者はいないが、おそらく名歌い手として不特定多数の喝采をあびる機会が日常にあふれているわけではないのだろう。ただフラメンコカンテがフラメンコたる所以は日々の人間の生活にある。最も渋く、通を唸らせるものは日々のふとした瞬間の集大成。

再読。ゴルドとブロンセが出てくると嬉しい。最後のガジーナの話はフラメンコ好きにはたまらない。

スペイン在住の画家さんによるフラメンコエッセイ。フラメンコの本質、フラメンコという生き方、フラメンコを通した人との絆 etc 著者のフラメンコへの愛情が溢れそうなくらい伝わってくる。独特の語り口がとっても軽快で、スペインでの生活がとても的確に表現してあってすごく面白かった。

アンダルシア二都物語
ドタメンコのすすめ
アグヘタ五人男顔見世興行の巻
東方三博士来訪記念ガマの油
鶴亀物語
ロタまで
厚紙の聖母
アーモンドの花咲く頃
ディエギートと義経
ファンダンゴ

ネジの逆転
ディエゴの井戸
ロンダ近郊案内
フルコース
ヰタ・コンプレックスアリス
アンダルシア異聞
映画の話
ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ
アンダルシア美わし
寓話
フラメンコ皆異邦人
ア・ウェイ・オブ・フエルガ
わが教養
ペーニャペロの彼方
セマナ・サンタ
肘の話
渋き門